

菩提樹

平成29年度 第9号 1月21日発行

年中行事に込める思い

明けましておめでとうございます。

本年も本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

さて今月8日、本校グラウンドで児童クラブ連合会主催の「左義長」が開催されました。前日よりずいぶんご苦勞をいただき、半日以上かけて10m近いやぐらが組んでありました。当日はあいにくの雨でしたが、多くの参加者にお集まりいただきました。児童代表が火入れすると、しめ飾りや書き初めを焚く火が燃え上がりました。

昔から、左義長の勢いよく燃える火にあると無病息災で過ごせると言い伝えられ、その年の五穀豊穡も願いました。さらに、書き初めが火の勢いで高く舞い上がると字が上達するとも言われていました。東五位の方々の願いを乗せて燃え立つ炎は、地域の宝ともいえます。

11日は「鏡開き」でした。最近では、鏡餅の中にパックのお餅や砂糖が入っているものが一般的ですが、数十年前、祖母が健在であった頃は、赤、緑色など（鮮やかな？）カビが付いた鏡餅を父が金槌で割っていました。祖母が、「鏡餅は、刃物で切ったら、あかんがや。鏡餅には神様が宿っていなさるから。」と言っていた記憶があります。餅のカビは丁寧に洗い清められ、ぜんざいにして味わいました。我が家には、天神様にお供えした鏡餅は家族揃って食べ、無病息災を願うという「年中行事」がありました。

年末年始にはこのように昔から伝わる伝統的な年中行事が数多くあります。時代とともに廃れていったこともあります。行事がもつ本来の願いや意味を次世代に伝えていくことは私たち大人の大切な役割だと思います。子供たちにとっても家や地域、学校の歴史だけでなく、先人の思いを身近に感じることができる貴重な機会となるはずで

す。本校では、今年も地域や家庭のご協力のもと、教職員が一丸となって教育活動に取り組みます。特に「子供たちに付けたい力」を明確にし、学習・生活指導を行っていきたいとも考えています。そして、上記のように子供の時に身に付けた「よい習慣」も大切にしてほしいと思います。

新春にあたり、皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしますとともに、本年が東五位っ子の飛躍の年となることを願っています。



バックボーン

バックボーンを辞書で引くと、最初に「背骨」という意味が出てきます。次に「思想・信条等の背景、それを成り立たせる考え方。精神的支柱」とあります。「あの人には一本筋が通っている」という使い方のようにその人の核となる「らしさ」をつくっているのがバックボーンというわけです。その背骨に不具合が生じると全身のあちこちに影響が出ます。時には、脳にも影響を及ぼすそうです。背骨の健康で心の健康まで決まる。背骨は私たちの人生を支える大黒柱なのです。

このようなことを書くのも、実は、お正月早々、腰椎の手術を受けることになりました。術後はベッド上で安静を余儀なくされ、寝返りや咳払い一つが大ごと。当たり前前にできていたことが何一つ自分でできないのです。健康の大切さを痛感しました。そんな入院生活を支えてくださったのが、病院のスタッフの方々。医師はもちろん、看護師、理学療法士、栄養科・医事科の職員、清掃に携わる方々まで、それぞれ高い専門性を持ち、協力してチームとなり、医療に取り組んでいる様子は感心させられました。

容体が回復に向かい、大部屋に移動してから、同室の患者さんと看護師さんの会話を聞いているうちに容体が一人一人違う中で、それぞれの思いに寄り添い、共感し、励ますことに徹していると感じました。そして、いつの間にか学校を重ねて見ていました。

もし、学級というジグソーパズルが存在するとしたら、凹凸があるからこそパズルはうまく結びつき、完成します。身長に高低があるように、勉強が得意だったり苦手だったり、足が速かったり遅かったり、絵が上手だったり下手だったり、互いによさを相手に見出して向き合う。それが集団の力だと思います。できれば、プラスもマイナスもひっくり返して、互いに大事な一人として認め合い、日々を過ごせれば最高です。

「チーム東五位」は本校のスローガン。復帰の日、いつもとかわりない優しい笑顔で私を迎えてくれた子供たちを見て、一人一人に寄り添う指導を心がけていきたいと改めて背筋をピンと伸ばしました。



プチ学校ニュース

校内万葉かるた大会

11日、恒例の校内万葉かるた大会が体育館で開催されました。昨年朝や放課後に練習してきた成果を発揮しようと全員が真剣なまなざしで札に向かっていました。中には対戦3回で100枚を超える札をとった児童もいて、底冷えする体育館に元気な声が響きました。その後の市大会でも団体戦や個人戦に上位入賞者が出るなど成果を生かすことができました。



薬物乱用防止教室

16日、6年生を対象に古城ライオンズクラブから講師をお迎えして「薬物乱用防止教室」を開きました。

一見遠い世界のことのように思われますが、世界でも、日本でも若い世代に薬物乱用の広がりが見られ若い世代からの啓発が必要なことが叫ばれています。人生を台無しにしてしまう薬物の恐ろしさを知り、その誘惑に負けないことを学ぶ良い機会となりました。



緊急時の連絡電話

冬場は大量の降雪や天候の急変、インフルエンザや感染性胃腸炎の拡大など臨時に休校もしくは午後の授業を打ちきりとなる可能性が高まります。

学校からもメール網等でお知らせいたしますが、学級の電話連絡網も活用いたします。恐れ入りますが、電話を間違いなく受信いただける配慮や次の方への連絡先の確認等をお願いいたします。



